

# 旭川 大雪の自然を守る会

発行所 旭川市一条二丁目 旭川工業高校内  
旭川大雪の自然を守る会  
TEL 31-2481  
編集発行責任者 木崎みゆ子

## 会員早くも二百五十名突破

### 市民運動盛り始める

十二月の七日の発足以来、大雪の自然を守る会と、そくそくと市民の入会申し込みがきています。二月十日現在、主婦、学生、会社員を始め、山岳会、協議会、文化人など二五〇名を越える会員数となりました。

環境破壊が進み、自然に対する住民の意識が高まる中で、言わば自然発生的に住民運動として盛り上げてきた会だけに、会員の意識は高く、強力を市民運動の担い手となりつつあります。

大雪の自然を守る運動が全道的に広がる中で、地元旭川だけが沈滞しているといわれていただけに、この動きは注目され、又、全道の仲間達の励ましになっています。

こうした動きの中で、最近、大雪縦貫道路建設促進期成会に入っていた旭川市が脱会を表明、自然保護と住民の環境保全に向けて動き出すような明るい情勢も

### 入会の御案内

私達「旭川大雪の自然を守る会」は旭川工業高校大雪山の自然を守る会、鷹栖町大雪山の自然を守る会が大雪山縦貫道路の建設に反対し、旭川大雪の自然を守る会を設立したのは次の理由からです。

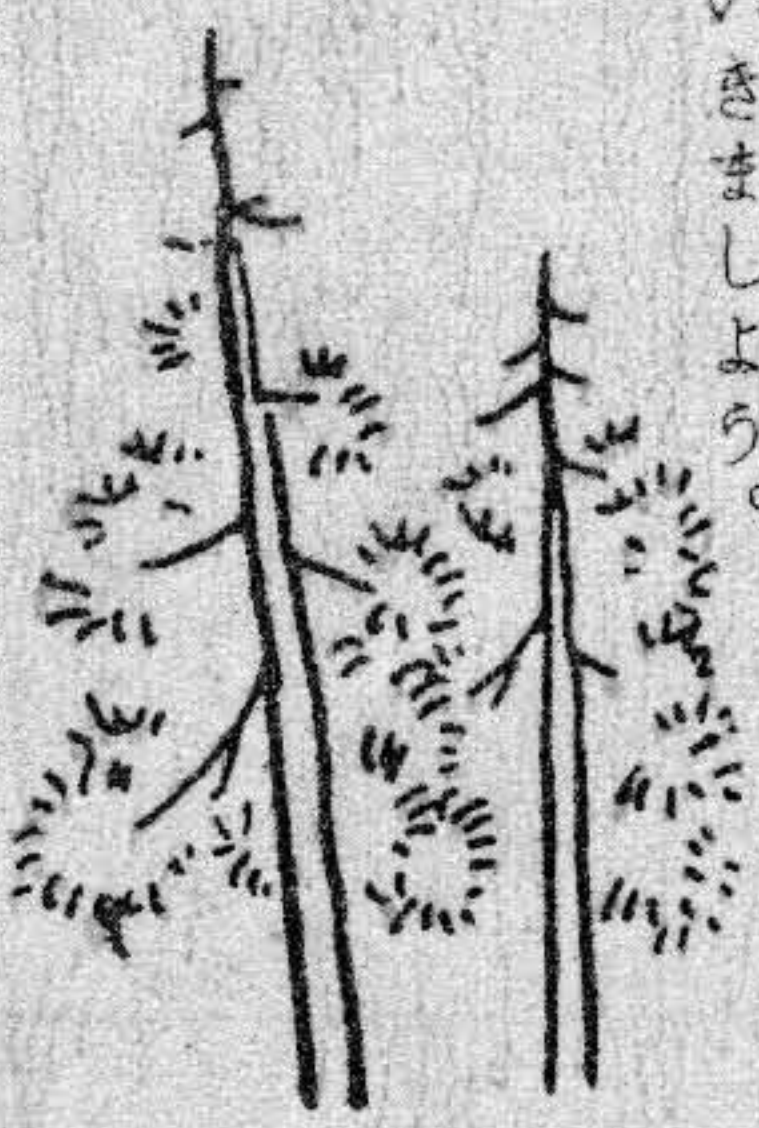
一、「産業道路」という名の下の道路の建設を計画しているが、この道路の価値は低いことである。

次々と生まれつつあります。大雪山の自然は、世界的にすぐれた価値を持つ点からして、全道はもとより、日本中の耳、目をかきたてており、今や自然保護運動の明暗をきめる天王山の様相を示してきています。

また、この縦貫道路は、余断を許さぬ厳しい情勢の中にあつて、この守る会の輪を、層市民の中に広め、強力な運動を展開して、必要があります。

街頭署名、宣伝、大雪の自然を守る学習討論会、市民集会など、次々と計画しています。

会員はもとより、全市民の手の中で成り立たせていきたいと思います。



この価値は高いといわざるを得ません。また、道東と道央を結ぶ幹線道路としての価値も、その目的の為に開設されている道路とこの道路がほんのわずかの距離しか離れないことを考えれば新しく「産業道路」をつくらなければならない理由はなくなってしまうのです。

この道路は紛れもない「観光道路」であることである。この道路の計画が出来ることになれば、道内の資本の手で、建設の先行取得、土地が次々、大資本、土地の買い手、地元の村、理事者、双方をあげ、援助

事を考えればこの道路はほんの握りの者の利益に過ぎない。住民無視、資本優先の「観光」開発道路であることが証明されていく。一「観光開発」による破壊を促進する事。自然は私達の生活を守つて、大雪山を宝として大切に守つていかねばならない。道路が計画されている特別保護区域は日本に残された数少ない原始の姿をそのままにとどめた豊かな自然に恵まれた場所なのです。次々と形を変える雪渓や咲きほころぶ高山植物がどれほどここを訪れるハイカーを慰めてきたかはかり知れません。

こんな場所を黒岳や旭岳と同じようにゴミの山とかえてしまえば、安易に登山者と無謀な遭難を生み微妙な生物の生態系を根底から破壊してしまふ「開発」という名の「破壊」に委ねては行けないのです。自然は一度破壊してしまふと二度と復元する事はできません。私達の「自然欲求」意識すら管理し、支配してしまふとする資本の論理と、それを合法化してしまふ環境行政が無計画、無原則な自然破壊を次々と生んでいるのです。「一度破壊されれば二度と復元できない自然」を私達は私達の手にとりもどさなくてはならないのです。

四、道路をつくる事によって「過疎」を防ぐという宣伝には、いったい観光開発で過疎を妨げた前例があったらどうかと考えざるを得ません。観光開発が地元の役場と観光業者によって促進されているのだから一般住民の生活が豊かになる事は期待できないのです。過疎が、道路一本で妨げるとなると過疎の原因はもったもったと根深いのです。以上、私達は私達の周囲にきれいな空気と澄んだ水と豊かな自然をとりもどそうとする運動の一つとして「大雪山縦貫道路」問題をとりえ、この建設に断固反対します。

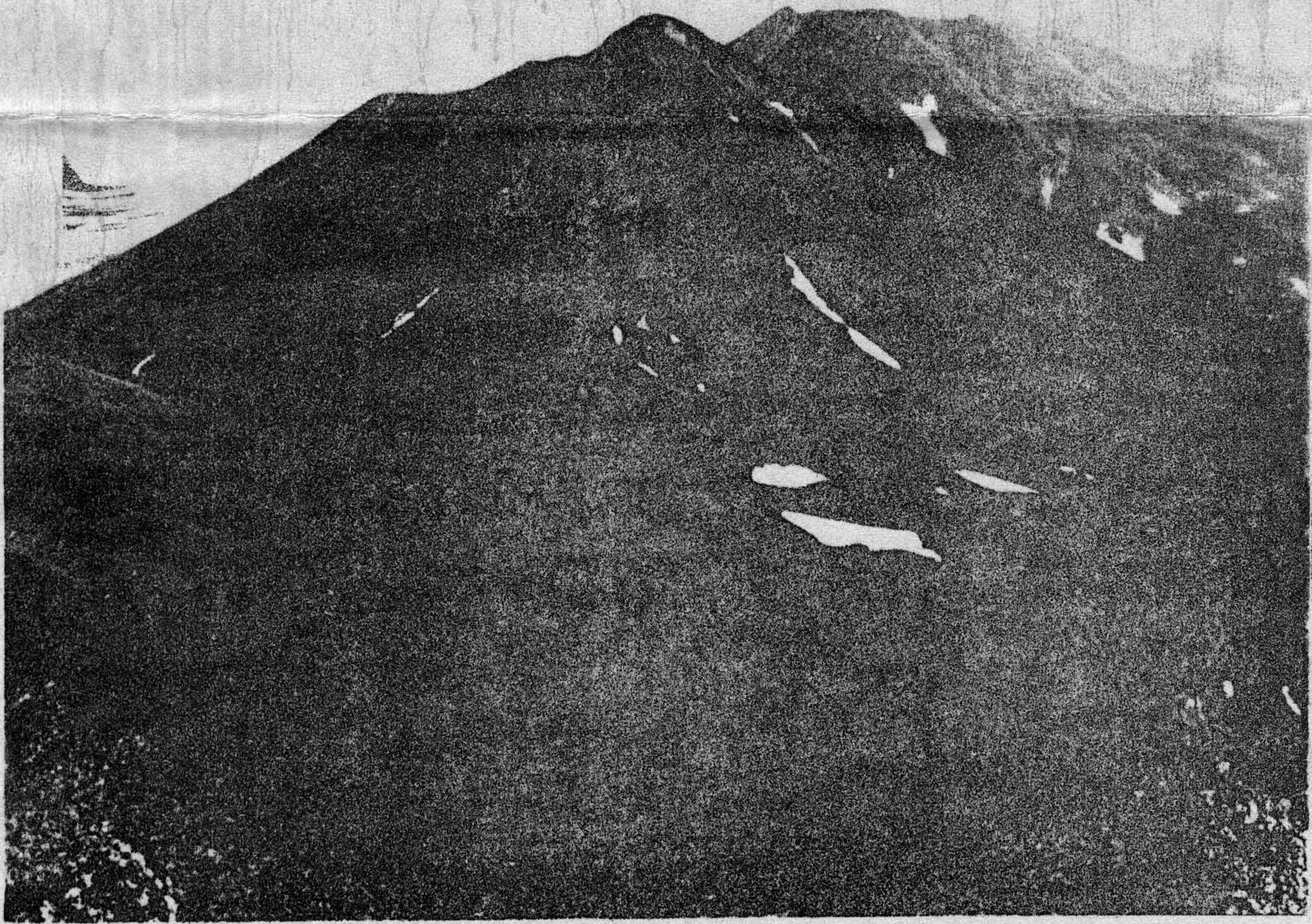
現在、この道路の建設は「自然公園審議会」で継続審議という事でストップをかけられています。一「自然公園審議会」は四月から「自然環境保全審議会」にかわり、新メンバーでスタートします。このとき「継続審議」がどのような形で結論づけられるかは全く不明です。私達の運動の成否は「自然環境保全審議会」がスタートする四月までの活動にかかっているのです。

今よりもっともっと多く、たくさんの方々が私達の趣旨を理解して下さり、共に参加し行動して頂ける事がなにより必要なのです。すでに会員となつて下さつたみなさんが、さらに運動の輪をひろげて下さいます事を心からお願いいたします。

二月十五日現在  
カンパ金総額一八、七七六円

守る会組織体制  
守る会所在地

- 旭川市一条二十四丁目
- 旭川工業高校内
- 代表 旭川勤労者山岳会 水野好古
- 事務局長 旭川工業高校 寺島一男
- 事務局員 鷹栖高校 佐藤佑一
- 旭川工業高校 佐藤弘毅
- 旭川勤労者山岳会 黒田
- 小野寺 進
- 木崎みゆ子



縦貫道路問題  
の歩み

昭和四十六年 四月

北海道開発庁、厚生省に縦貫道路建設の協議書提出

七月 八月

環境庁発足  
「大雪山の自然を守る会」準備会「札幌で発足」

十一月 (二十一日)

「大雪山の自然を守る会」(以後札幌「守る会」と略す)は大石武一環境庁長官と面会、道路建設反対を表明

十一月 (二十二日)

第一回全国自然保護連合総会  
「大雪の自然を守る会」新得「発足」

十二月 (三日)

札幌「守る会」設立  
第二回全国自然保護連合総会

五月 (二十七日)

第八回全道登山祭典、旭川で行なわれ、「自然破壊」についての講演を開く(参加五〇名)

八月 (十一、十四日)

環境庁が道路予定地の現地調査を行なう。小山環境庁長官現地視察、白金温泉で「現ルート」変更を要

昭和四十七年 八月

(十日)

同長官、「特別保護地区を通らなければ建設を認める」と発言

九月 (九日)

環境庁、「ルート変更を条件として縦貫道路を認める」と発表

(十八日)

道開発庁、新ルート案発表

十月 (二十七日)

全道労協、「大雪の自然を守る道民会議」結成

(三十一日)

自然公園審議会、結論保留される。

十二月 (七日)

「旭川大雪の自然を守る会」発足

二月 (八日)

「自然保護を考える夕べ」札幌にて行なわれる。

五月(六日)

三木環境庁長官現地視察予定

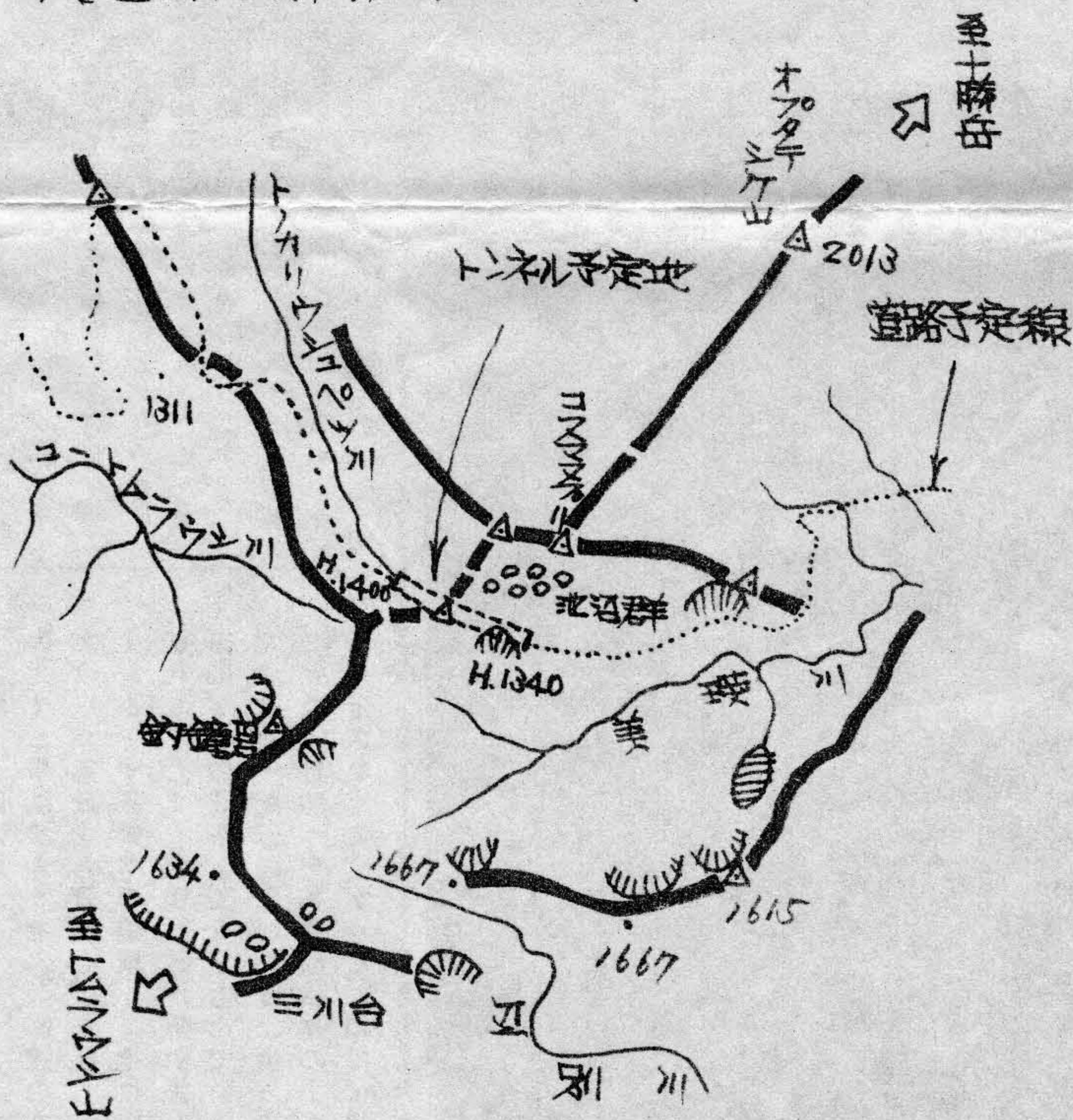


当面の行事から

- 2月 8日(木) 札幌市民集会参加
- 12日(月) ~14日(水) 職場、労組、団体オルグ
- 15日(木) 守る会ニュース1号送付  
入会案内申し込みカード2次分発送
- 17日(土)~18日(日) 街頭署名、活動資金カンパ、チラシ配布
- (土) 14:00~16:00
- (日) 12:00~14:00
- 26日(月) 守る会ニュース2号送付
- 3月 5日(月) 大雪山の自然を知る集い
- 12日(月) 守る会ニュース3号送付
- 20日(火) 大雪山の自然を守る市民集会
- 26日(月) 守る会ニュース4号送付
- 4月 1日(日) 市民アピール

大雪山の自然を知る集いに参加しよう。

大雪山縦貫道路建設予定図



大雪の自然を知る集いに参加しよう！

「雪の国」公園、ヨーロッパの自然を誇る公園、当然のことながら我が国では最大のもので、放漫な観光開発の波が押し寄せる中で、比較的的自然が保たれている原始型の公園です。

チシマ、カラフトの火山帯が接するため、高山植物の種類も多く、山上の高原や湿原地帯に見事な花畑をつくっています。エゾマツ、トドマツ、アカエゾ松等の森林は安定した林相の極致とも言われる見事な樹林です。

これらの樹林を中心に池塘群や溪谷が広がり、これらを生活圏にして、ヒゲマ

動物達が住み、科学的に貴重な昆虫、動物もあり、大雪山という見事な自然のエコシステムを形成します。

これらの貴重な自然を破壊する大雪山縦貫道路の建設を私達の手で絶対阻止しましょう。

その為にも、もっと私達の愛する大雪山を知り、自然の素晴らしさを認識する夕べをもちたいと思います。

どうぞ隣り近所の方々を誘ってお気軽に参加下さる様お願い致します。

会員だより

皆様の御努力に對しまして心から敬意を表しますと共に今後のご精進の程おねがい申し上げます。

この度、大雪の自然を守る会設置につきまして等しく自然を愛するものとして、まことにうれしく感謝にたえません。(中略)

私共、反対の立場のものにとつて益々底辺の広い活動になくはと痛感している次第ですので、今後共々のご活躍をお願い申し上げます。

編集室

縦貫道路問題のニュースが出る度に一喜一憂している事務局です。会員のかたたちから、送られてくる暖かい励まし、カンパが事務局を動かす原動力です。

一回目でどうも満足のいくものにならなかったのは残念ですが二号、三号と回を追って一人一人の会員の声をこのニュースに映して行きたいと思えます。

